

<循環器内科>

一般（教育）目標

循環器疾患を幅広く経験することにより、同領域の疾患および病態を理解する。

虚血性心疾患、うっ血性心不全、弁膜症、不整脈、大動脈疾患および末梢血管病などの疾患のマネジメントを指導医・上級医と綿密に相談しながら行うことができる。急性期管理のみならず、当院特有の慢性期病棟・リハビリ病棟・社会調整なども経験することで、医師として深い思慮を育むことを目指す。

（具体的）行動目標

(1) 基本姿勢

- ・病態の把握ができる病歴聴取を心がける。病態の理解を深める。

(2) 診察法、検査、手技

- ・循環器疾患の病態を評価するための検査計画をたてることができる。

(3) 症状、病態への対応

- ・行った検査の評価ができる。
- ・狭心症発作・急性心筋梗塞発作・心不全発作・不整脈発作・急性大動脈解離・大動脈破裂の徴候を捉え、指導医・上級医の指示のもと、適切な初期治療を行うことができる

学習方略(1)

- (1) 指導医・上級医とマンツーマン指導のもと入院患者の診療を行う。受け持ち患者数は10人前後とする。
- (2) 週1回の多職種カンファレンスに参加し、症例提示を行う。医師としての目線だけでは無く、看護師・理学療法士・医療ソーシャルワーカーなどとディスカッションすることで患者1人1人に寄り添った医療を考える習慣を学ぶ。
- (3) 指導医・上級医の指導・手技レクチャー・シュミレーションのもと、熟練度に合わせて心エコー検査・CV挿入・動脈ライン確保・スワン-ガンツカテーテル挿入・心肺蘇生措置などを実施する。理解度や手技の習熟度の高い者にはCAGを行わせる事もある。

学習方略(2) 勉強会・カンファレンス・学会など

- (1) 実際に受け持った担当患者についての最新の治療法について指導医・上級医と議論を行う。
- (2) 虚血性心疾患、心不全、不整脈、大動脈疾患などの循環器領域の common disease を対象としたレクチャーに出席する。

- (3) 興味深い症例を受け持った場合、研究会や日本循環器学会地方会などで、指導医・上級医の指導のもと発表を行う

週間予定（例）※他に他科コンサルテーションなど

	月	火	水	木	金
午前	カテーテル 検査・治療 病棟業務	病棟業務	多職種カンファレンス・ 二次救急対応 病棟業務	カテーテル 検査・治療 病棟業務	病棟業務
午後	カテーテル 検査・治療 病棟業務	病棟業務	病棟業務	カテーテル 検査・治療 病棟業務	病棟業務

EV 評価

PG-EPOC による評価方法（研修医⇔指導医）

※研修医は、各分野の研修終了後、速やかにその分野の自己評価を行い、PG-EPOC 評価システムに入力すること